

## 第3回京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議 開催概要

●日 時 平成27年8月31日(月) 15:00~17:00

●場 所 宮津市保健センター

●要 旨

- ・宮津総合実習センターの概要について報告。
- ・府北部地域の人材確保に向けて、協力して取り組む。

●内 容

### 1 あいさつ（京都府）

4月に舞鶴市にて介護福祉士養成校の舞鶴Y M C A国際福祉専門学校が開講、5月に福知山民間社会福祉施設連絡協議会にて現任者研修を開催するなど、地域の中で具体的な人材確保・定着の取り組みが動き出した。

この場で意見交換する中で、地域の福祉の推進につながるよう進めていきたい。

### 2 報告事項

#### (1) 宮津総合実習センターの概要について

##### ●みねやま福祉会

実習室、研修室を備えた実習センターを整備予定。設置場所は宮津市の暁星高校近くで、整備費は10億円の予定。整備期間は平成29年2月までの13か月の予定。

#### (2) 舞鶴養成校について

##### ●舞鶴Y M C A国際福祉専門学校

次年度の出願・募集状況については、AO入試で2名が合格。10月10日から指定校推薦入試など開始。高校訪問について、舞鶴市のみならず、綾部、福知山の一部の高校でも実施。高校内ガイダンス、学校見学会など継続的なアプローチを予定。オープンキャンパスについて、4月~8月で9回開催。引き続き各団体には広報協力いただきたい。

#### (3) 福知山現任者研修について

##### ●福知山民間社会福祉施設連絡協議会

介護・福祉人材養成センターとして、成美大学にて4月1日開設し、実務者研修を5月26日、6月2日から開講。

今後の研修計画は、現任者研修、介護福祉士国家試験受験対策講座、介護職員初任者研修等を予定している。

##### ●京都府

喀痰吸引研修については、これまで府北部に登録研修機関がなかったため、喀痰吸引研修実施となるのであれば、北部初となるが、どのようにお考えか聞きたい。

##### ●福知山民間社会福祉施設連絡協議会

喀痰吸引研修については、多数の指導看護師が必要であり、当協議会の法人に在籍する指導看護師と打ち合わせをしているところ。できるだけレベルが高い研修を実施したいと思っている。

●京都府

京丹後市の取り組みを御報告いただきたい。

●京丹後市

以前からの要望もあり、地元で喀痰吸引の研修を実施。京都府が宮津武田病院で実施していたが、地域の実態から見ると、勤務の合間を縫って研修に参加したり、実地研修が自分のところに患者がいなければできないことが問題であった。患者が少なくて同意が得られなければ、長い期間かかってしまうため、改善できないかということで京都府には非常にお世話になって、市民病院等に協力してもらう体制ができた。

●看護協会

喀痰吸引について、限られた時間の中で、安全性を求めながら研修することは大変。いかにして受講生にわかりやすく安全に指導していけるかが課題。

実際に吸痰が必要な方にどのように同意をとるかについて、京丹後市立病院においては市を挙げての理解があったので、一緒にやっという体制がとれたからできたと思う。看護師もフォローアップしながら、安全性を確保しつつ、一緒にやっていきたい。

(4) きょうと介護・福祉ジョブネットの取組について

●京都府

昨年度立ち上がった北部ブランドチームは、8名の若手現任職員等で運営。昨年度、舞鶴赤れんがパークで行った福祉フェスタでは1500人の来客があった。

この戦略会議や、北部人材養成システムと北部ブランドチームの若手の取り組みを連携しながら、全国的にも無いような取り組みを行っている。

●北部ブランドチーム

北部ブランドチームのメンバーは高齢、障害施設の20代後半～30代前半の若手職員。若者の視点で福祉人材の定着や北部地域の魅力発信を主な柱として昨年度より取り組んでいる。

今年度、若手職員研修の第2弾として、10月6日に舞鶴YMCA国際福祉専門学校にて、ポジションニングと介護技術研修を開催する。研修は介護福祉事業所職員の定着を目的として、実施内容を北部ブランドチームメンバーが企画した。北部地域の若手職員の介護技術の向上を図り、キャリアアップにつなげていきたい。

福祉フェスタ in まいづるについては、「福祉を身近に感じてもらい、福祉の魅力発信、認知を高めること」を目的とし、11月22日に、会場は舞鶴赤れんがパークで行う。ステージ会場と魅力発信ゾーンステージ会場では、家族で楽しめる企画を用意している。有名人としてテツアンドトモを予定しているほか、地元の高校生にも参加してもらう。

北部ブランドチームに参加して、福祉の魅力を伝えることの面白さが増した。大切さを感じたのは、現場が魅力を発信することで、引いては北部ブランドになれば、より一層魅力が広がるのではないかと感じている。

多くの方を巻き込んで福祉に触れていただいたり、若手が考えて主体的に取り組む企画を、皆様の御協力、後押しをいただいて、年間通して取り組んでいきたい。時間があればぜひ会場に足を運んでいただきたい、また各自治体の協力要請があれば、ぜひこのブランドチームを思い出して欲しい。我々も検討したい。これにあわせて、大学実習の受入なども理解促進でやっている。自治体毎に取り組んでいたり、都会にはない福祉の試みを学びの一つに入れていただければ福祉の定着の取組になると思うので、よろしくお願ひします。

●福知山市

小中学生に対する理解促進事業の実施については、子どもの頃からのPRが大事であると思うが、具体的にどのような活動をしているのか

## ●京都府

北部の小中学校へ介護職場の体験であったり、校内発表会、年度末に府社協の協力を得て京都市内で発表会を行っている。若い世代の福祉の仕事に対する理解が大切だという意見があったので、各市の行政、町役場の方、各市の教育委員会にもご理解をいただいてやっている。他にも高校生対象として、高校に足を運ばせていただいたり、機会を捉えて高校生向けにも実施している。

### (5) 京都府福祉人材・研修センターの取組について

#### ●福祉人材・研修センター

北部の人材確保、研修事業については北京都ジョブパークを中心にやっていただいているが、今後、福祉人材・研修センターにおいても、状況をお伺いしながら、皆様のお知恵を拝借しながらすすめたいと思っている。

京都府保育園就職フェアについては、10月24日に開催。

ハートピア京都に構える事務所を、10月中旬にリニューアルオープンし、京都府と介護人材の支援センターを開設するのでご利用いただきたい。

福祉介護の有資格者で再就職を検討している潜在有資格者の方に、座学と実習を2日間行い、自信をもって職場に入っていただく第一歩としての研修を企画している。

8月15日、16日の北部就職フェアについて、実行委員会形式で、福祉施設と一緒に実施。今回は類似フェアの開催なども重なり、来場者が非常に少なかった。今後は地域のハローワークや市町と一緒に開催時期を含め、就職フェアを考えていきたい。

## 3 協議事項

### (1) 宮津総合実習センターの今後の連携策について

#### ●みねやま福祉会

福祉に関する資格を育てるという第一義的なものもあるが、もっと広く人を育てるということをやっていきたい。施設を作って、実習生に来てもらうだけではない。みんなで一緒に育って行き、楽しい丹後作りができたらいいい。アドバルーンは大きく、具体的な取り組みは地道に。大きな希望、夢をもって、福祉の仕事はケアだけではなく、街づくり、人づくりに参画していくことも福祉なんだというのを強く掲げていきたいと思います。

#### ●老人福祉施設協議会

ぜひ北部医療センターとの連携をしていただきたい。医療的ケアという部分で、特養とか老健とか、病院でされている方が、地域にもどってもらうために、実習施設として、福祉施設と医療との連携もモデル施設みたいな形になり、色んな発信をしてもらいたい。

#### ●介護老人保健施設協会

実習施設は、職員の資質の向上のみならず、今おっしゃっていた北部全体が盛りあがるような実習センターになってもらえればと思う。

#### ●京都知的障害者福祉施設協議会

高齢者の介護施設、また事業所のサービスの充実が求められている中で、人員確保が急務になっている。25年問題などあげるまでもなくこれから大変重要な課題であり、連携して課題解決に取り組む必要がある。北部の実習施設としてのセンター機能、コーディネートとするような機能として人材が必要と思う。丹後も大事だが北部の人材養成システムの中の実習センターということで、実習センターにはハード、ソフト両面でやってもらいたいと思っている。

### ●福知山民間社会福祉施設連絡協議会

本格的に充実した研修が受けられる施設ということで、実習生が集まる場になると思っている。そこで宮津市だけでなく北部全体で、施設がどこでどういう活動をしているのかが学生にわかるようなセンターとしての情報コーナーを設けてもらおうと、北部の福祉施設の充実につながっていくと思う。北部の拠点となる実習センターとしての役割を担うことを願っている。

### ●舞鶴YMCA国際福祉専門学校

作るのは本当に大変と思う。また、できてからがスタートと思う。これから先まだまだ続いていくので上手に連携を進めていきたい。

### ●北部ブランドチーム

社会福祉士は四大卒が前提。実習要件、社会福祉士のカリキュラムを、という話も出ているがその環境を作るのが課題と思う。

### ●みねやま福祉会

社会福祉士、ソーシャルワーカーについては、地域のあらゆる資源をつなげる、そういう役割になっていると思います。ソーシャルワーカー1人が担っているのではなくて、多くの職種、多くの社会資源とつながって、その地域の暮らしを支えていく必要がある。

そのためには実習する施設が社会福祉士養成校ともっともっとしっかりつながらなければならない。実習の時には週2回4週間、巡回指導しなければならないが、養成校とつながるのは養成のためだけではなくて、ソーシャルワーカー、介護福祉士の現場と、養成機関が結びついて、更なる研究をしたり、工夫をしたりということができればと思っている。

最近思うことが、例えば、「刑余者」と呼ばれている人たちに関して、司法の人たち、弁護士、検察官と福祉の現場をつなぐことも必要。京都の社会福祉士会の皆さんは、司法としっかり連携をもって出所してきた人たちを支えている。刑務所に入っている方の多くの軽度の知的障害者であることがわかっているし、80歳を超えた高齢者で要介護状態の受刑者もいる。フレキシビリティのある受容力のある地域社会作りができるのではないかと考えている。

総合実習センターは宿泊施設がちゃんとあるので、学生に来ていただいて、学生の両親にもきていただいて、学校の先生にも夏休みのワーキングキャンプをすることも考えている。

舞鶴YMCA国際福祉専門学校、福知山民間社会福祉施設連絡協議会とも積極的に協力する。

### ●京都府

総合実習センターの詳細な内容はコアな会議で検討していきたいと思っている。

## (2) 北部福祉人材確保の取組について

### ●ハローワーク福知山

求人倍率について、福知山管内で1.31倍まであがってきている。北部管内でも1.1倍を超えている、福祉関係はご承知の通り2倍は優に超えている。福知山でいうと、毎月希望者へ福祉関係の求人情報を提供しているが、看護職で25名ぐらいだけ希望。福祉関係は約70~80名ぐらいが希望。求人についてはたくさんあり、なかなか企業の充足には至っていない状況。今後考えていかなければならないのは、福祉への魅力とか理解をもっと広めていかなければならない。人材は待っているだけでは増加しない。福祉に対する認識について、新聞とか報道をみるだけでは、しんどい仕事、給料が安いといった概念を持っている方がほとんどだと思う。そういったところの払拭がないと人材不足の解消にはならない。実際の現場を見てもらう体験などを通じて、福祉の現場を理解してもらって福祉の魅力をもっとアピールをしていく必要があるのではと思う。

●福知山市

介護人材の確保が厳しいという認識があり、25年度から各種の助成や奨学金制度を始めた。福知山民間社会福祉施設連絡協議会と協力して、官民一体となって取り組んでいる、PRについては、PRチームを作って様々な活動をやっていこうと検討している。

●舞鶴市

YMCAの学生確保について、景気が良くなって、福祉の仕事に対する興味、志望が少なくなってきた。積極的なアピールをしていきたい。志望動機として、親御さんが福祉関連の仕事をしていることが志望につながっているという話がある。関係機関との連携として、施設の方から学校の紹介をしてもらい働きかけも積極的にやっていきたい。

●綾部市

人材確保の面からUIターン確保、家賃補助を実施。今年度から介護福祉士の養成事業、YMCAを意識した就学資金貸与を開始したところ。引き続きの周知につとめて、人材確保、市の定住につなげていきたい。

●宮津市

福祉人材が集まりにくく、市民を対象にした人材確保だけではダメだということで、法人は周辺市町村からも集めている。人材確保の状況は厳しく、看護師も同様。舞鶴YMCAにも宮津市から少しでも行ってもらいたいのので、今年度奨学金制度も創設した。舞鶴YMCAの学校回りを一緒に行うなど、お力添えしていきたいと思っている。

●京丹後市

研修については、喀痰吸引の体制をとることができた。北部の人材確保としてふるさと就職フェアINたんごを27年10月18日に商工振興課主管で開催する。福祉人材の相談コーナーも予定している。

実習を通して、施設が人材を育成するという共通認識を持った上で、取り組んでいけないといけない。

●伊根町

引き続き、介護職員初任者研修への補助等を行う。福祉人材の育成確保については、近隣の取り組みに積極的に活用・協力していきたい

●与謝野町

25年に地域共生型施設やすらの里を開設。やすらの里の大きな目標は、本来介護度が高い、優先的に入所していただかないといけない、胃ろう、吸引など医療行為が必要な方の入所率が高い施設にしたいと、理念を打ち立てて、設置してもらった。

喀痰吸引の研修事業については受講者の補助制度を27年度に創設した。

●北京都ジョブパーク

北部では必要な人材が確保できない状況の中で、担い手の研修などを実施した、UIターンの促進もミッションの一つ。

●京都府

人材確保の取り組みは京都府でも、高等技術専門校とも連携した離職者訓練などを幅広くやっている。市町とも連携して事業をすすめたいと思っている。また、来年度の事業についても、京都府事業の中で、連携して協働してやっていくのが大事と思っており、協議などをさせてもらう機会があればと思うので、またご案内させていただきたいと思っている。

#### 4 閉会

##### ●京都府

人員の確保は大変であり、北部地域に人を育てていく課題など、京都府として引き続き大きな課題として取り組んでいきたい。ご意見を踏まえながら、来年度の具体的な取組みを、関係者で検討していきたいと思っている。

次回、年末か年明けにこのような会議で、来年度の取組みについて具体的に話していただく機会を設定したい。引き続きこのメンバーで北部地域の福祉の魅力が高まっていけばと思う。ありがとうございました。